

日韓両言語の文末表現に見られる性差の対照研究

- いわゆる「韓流」ドラマの台詞とその対訳を題材として -

梶 佳 枝 *

目 次

- I. はじめに
- II. 言語における性差
- III. 日韓両言語の文末表現と性差
 - III.1. 日本語の文末表現と性差
 - III.2. 韓国語の文末表現と性差
- IV. 『冬のソナタ』における「-지 (ci)」「-냐 (nya)」「-니 (ni)」
- V. 結論
- VI. 終りに

I. はじめに

本論文では、昨今のいわゆる「韓流」のきっかけとなった韓国ドラマに材料を求めて、言語における性差という視点から日本語と韓国語を対照する。韓国語が日本語版でどのように翻訳されているのかに着目した。特に焦点を当てたのが、性差を担っていると思われる文末表現である。そこに日韓両言語における性差の違いがどう現れているかを分析し、そこから考えられる日韓両言語の構造や性格の相違を考察したい。

日本語の文末表現には、終助詞のように性差の区別があると言われている形式が幾つかある。ただし、ここでいう文末表現は終助詞に限らず、文末に表れ、なんらかの意味を有す

* 南ソウル大学校 外国語学部 日本語専攻 講師

るものを対象とした。ところが、これとは対照的に、韓国語の文末表現には性差の区別のある形式はないと言われている。しかし、かりに男女共が使用可能な形式であっても、その使用頻度に性差が現れている可能性がある。

ただ残念なことに、韓国語の文末表現でおそらく最も頻繁に使用されるのは、「(아/어)요 ((a/e)yo)」であると思われるが、そのニュアンスは大変微妙で、韓国語の母語話者ではない筆者には、まだ扱いきれない面がある。今回の研究では考察の対象として取り上げないこととした。その旨、あらかじめお断りしておく。したがって、本論文で考察の対象として取り上げるのは、それ以外の形式で、映画・ドラマの中で頻繁に使用されていた「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」の3つである。

II. 言語における性差

私たちはことばを使うことを通して、どんな男あるいは女になろうとするのか。また、いわゆる「男だ/女だ」と言われる行為をするに至るのか。

ミルロイがベルファーストの三つの地域に住む労働者階級集団の調査で、ある一つの地域に住む若い女性達が非標準形を男よりも頻繁に使っていることを明らかにした。そこで、この地域では男の失業率が高く、若い女性達が全員同じ職場で働いていることに注目する。そして、同じ地域でも職業・家庭・趣味などに基づいて形成された様々な小集団(社会的ネットワーク)があり、その小集団の人間関係の密度が濃いと特定の話し方を強制する力が強くなると考えた¹⁾。

また、同じベルファーストの同じ地域に住む二人の女性が、同じような家に住んで、同じような仕事をしていながら、全く異なった話し方をするという結果も報告されている。一方は、より非標準的なことばづかいをするのだが、この女性は地元のビンゴをするグループのメンバーで、その地域に近い親類が多い。もう一方は、その地域に親類はなく、地元の人との付き合いもなく、テレビを見ながら家で過ごすことが多いのである。このように女性達も、地元の訛りを、地元の集団との一体感と、それに対する忠誠心を表す方法として用いる。女の言語行動が女という女性だけでなく、様々な社会的要因によって互いに異なることがわか

1) 中村(2001)pp.42-46

る²⁾。

このように、言葉の男女差は、男女に内在する相違が生むのではなく、男女を取り巻く様々な条件が言語行動に影響する結果、生まれるものなのである。

Ⅲ. 日韓両言語の文末表現と性差

Ⅲ.1 日本語の文末表現と性差

男女差は、言語の様々な面に現れる。小川(2006)の中で男女差を示す要素として次の10要素が掲げられている。①終助詞(文末表現)②呼称③音変化④イントネーション⑤語彙⑥文法⑦敬語⑧パラ言語⑨聞き手の性別⑩その他(呼びかけ、言いよどみ、繰り返しの表現etc.)

尾崎(2004)によれば、日本語でことばの性差がもっとも顕著に観察されるのは自称詞と文末形式だという。女性専用とされる文末形式はいろいろあるが、重要な特徴は、次の二点に集約されている。「終助詞「わ」の付加」と「助動詞「だ」の省略」である。これに対し男性専用とされる文末形式の代表は、終助詞「ぞ」「ぜ」の付加である。

「明日は雨だ」という時に、どのような表現を使うかのアンケートを行った結果、女性専用とされる助動詞「だ」を省略した「雨よ」「雨ね」、終助詞「わ」を付加した「降るわよ」、助動詞「だ」は省略していないが「わ」を付加した「雨だわよ」などは、男性の使用があまりない。もっとも、この使用には年齢差があり、若い女性でも半数近くは、助動詞「だ」を省略しない「雨だよ」「雨だね」、終助詞「わ」を付加しない「降るよ」を使っているという。若年層においては男女共通の表現となっているのである³⁾。

また、小川(2006)の調査によると⁴⁾、実際の使用では、使用頻度の多かったものは男女とも類似しており、終助詞に男女差があるとは簡単には言いがたい。しかし、使用数の男女差に着目し、使用頻度が少なくとも女性の使用頻度が男性の使用頻度の2倍であったもの「ね、の(疑問文以外)、よね、のよ」、男性の使用頻度が女性の使用頻度の2倍であったも

2) スーザン・ロメイ(著)土田滋・高橋留美(訳)(1997)pp.102-103

3) 尾崎(2004)pp.48-55

4) 小川(2006)1996年に首都圏の大学生から採取した会話データから終助詞の使用を男女別に集計したもの。pp.39-51

4 比較文化研究

の「な、よな、ぜ、ぞ」を掲げ、依然として男女で違いがあることを認めている。

次に掲げる<表1>は、今回取り上げた4作品の日本語版対訳で使用されていた文末形式を網羅し、その出現回数および使用者別に見た男女各々の対総数比を示したものである。網掛けの部分は男女共に使用されたものではなく、どちらかにだけ使用されたものである。日本語の文末形式は、日本語版対訳の文末に現れたものを拾った。明らかに意識のものに関しては対象外とした⁵⁾。

< 表 1 >

文末表現	男性	女性	文末表現	男性	女性
のか	35(12,5%)	0	から	1(0,3%)	1(0,2%)
(ん)だ	29(10,3%)	0	なんて	1(0,3%)	1(0,2%)
な	13(4,6%)	0	だから	1(0,3%)	1(0,2%)
(ん)だよ	7(2,5%)	0	でしょうね	1(0,3%)	2(0,4%)
(ん)だな	5(1,7%)	0	つけ	1(0,3%)	2(0,4%)
よな	5(1,7%)	0	のに	1(0,3%)	2(0,4%)
さ	4(1,4%)	0	ないと	2(0,7%)	2(0,4%)
(の)かい	4(1,4%)	0	って	3(1,0%)	5(1,1%)
でしょう	2(0,7%)	0	(ん)だろう	3(1,0%)	6(1,4%)
ぞ	2(0,7%)	0	ね	9(3,2%)	30(7,1%)
ろ	2(0,7%)	0	(ん)でしよ	8(2,8%)	93(22,0%)
かよ	1(0,3%)	0	の	24(8,5%)	168(39,9%)
(ん)だね	1(0,3%)	0	わけね	0	1(0,2%)
だろうな	1(0,3%)	0	(ん)だわ	0	1(0,2%)
なよ	1(0,3%)	0	し	0	1(0,2%)
が	1(0,3%)	0	わけ	0	1(0,2%)
なあ	1(0,3%)	0	けど	0	2(0,4%)
(ん)だい	1(0,3%)	0	わね	0	3(0,7%)

5) 時間は『冬のソナタ』20時間、『猟奇的な彼女』2時間、『ラブストーリー』2時間、『ブラザーフッド』2時間30分である。

と思う	1(0,3%)	0	のよ	0	4(0,9%)
とは	1(0,3%)	0	のよね	0	7(1,6%)
だろ	33(11,7%)	1(0,2%)	かしら	0	8(1,9%)
か	29(10,3%)	1(0,2%)	わよ	0	10(2,3%)
よね	18(6,4%)	11(2,6%)	わ	0	11(2,6%)
よ	14(5,0%)	9(2,1%)	のね	0	12(2,8%)
かな	10(3,5%)	5(1,1%)	わよね	0	19(4,5%)
だ	4(1,4%)	1(0,2%)	合計	280	421

()内は割合

尾崎(2004)の指摘するとおり、男女共用のものも少なくないが、使用回数の多い少ないは別にして、男女どちらかしか使わない形式が多数あることはまちがいない。

また小川(2006)が7辞書⁶⁾から、見出し語として記載されている終助詞で、男女差についての説明のあるものを拾い出して調べた結果と比較しておきたい。1辞書以上で女性語と説明されていたものは多い順に「わ、かしら、てよ、て、こと、のよ、の、わよ、わね、よ(名詞+「よ」)、たら、もの(ん)」、男性語と説明されていたものは多い順に「ぜ、な、い、よ、ぞ、かい、だい、さ、かよ、ね、や、なよ」であった。そのうち、<表1>においても女性だけに使用が見られたものは「わ、かしら、のよ、わよ、わね」、男性だけに使用が見られたものは「な、よ、ぞ、かい、だい、さ、かよ、なよ」であり、辞書の説明とドラマ及び映画の中の男女差は類似していることがわかる。

III.2 韓国語の文末表現と性差

韓国語における性差を概括したのが任洪彬(1997)である。そこでは、韓国語に現れる絶対的な女性語と共に相対的的重要性を持つ女性語、すなわち、女性が使う傾向が多い言語

6) 小川(2006)『Dictionary of Japanese Grammar(1986)、『講談社カラー版国語大事典』(1989)、『新明解国語辞典第五版』(1997)、『広辞苑第五版』(1998)、『明鏡国語辞典』(2002)、『大辞林第二版』(2005)、『大辞泉増補・新装版(デジタル大辞泉)』(2005)』pp.40-41

的な特徴に注目している。

「敬語使用の側面」の中で、聞き手に対する待遇表現を大きく「高い待遇」「同等の待遇」「低い待遇」の3つに分けている。高い待遇のうち「습니다(supnita)」の形を「硬語尾」、「요(yo)」を「軟語尾」とした場合、日常生活で女性が非常に多く使うものが軟語尾であり、その軟語尾の使用を女性語の特徴的な現象であると指摘するのが一般的であると述べている。絶対的女性語だけを探そうとしなければ、軟語尾「요(yo)」のような女性語が韓国語にも明らかに存在するとしている⁷⁾。

また이창숙(2000)は疑問文において男性は「-냐(nya)」を、女性は「-니(ni)」を頻繁に使用し、「-냐(nya)」は「-니(ni)」と比べて、相対的にぞんざいで攻撃的な語感を与えると述べている。

以下ではまず、今回対象としてとりあげた「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」3種の形式が、韓国語の待遇語尾の中でどのように位置づけられているか、を概観する。

これらはいずれも終結語尾である。終結語尾は平叙形、質問形、命令形、勧誘形のように文の種類を区別する機能と同時に、聞き手に対する尊敬の度合いを表示する機能もある。語尾の分類はいろいろ提唱されているが、もっとも基本的なものが、次の<表2>に掲げる金東俊(1989)の分類である。

<表 2> 金東俊(1989)の分類

			平叙形	質問形	命令形	勧誘形
対者待遇法	尊称	丁重尊称	습니다	습니까	십시오	(실까요)
		普通尊称	(아/어)요	(아/어)요	(아/어)요	(ㄹ까요)
		親愛尊称	오, 우, 구료	오, 우	오, 우, 구료	읍시다
	略待形	略待	아/어	아/어	아/어	지(ci)
	下称	丁重下称	네, 어이	나, 니가	계	세
		普通下称	다	니(ni)/냐(nya)	(아/어)라	자

7) 本論文では取り上げなかった「(아/어)요((a/e)yo)」について、任洪彬(1997)は音声的な特徴及び抑揚や音調も大切であることを主張し、同じ形式を使っても、女性語の方が文の終わりが男性より多少長く、軟らかな抑揚曲線をもつ傾向があること、若い女性の場合、文の終わりに鼻音で発音されることがあることを報告している。

「-지(ci)」のある、略待形は非常に幅広く使われる語尾である。金東俊(1989)の表では「勧誘形」のところに分類されている。「-냐(nya)」「-니(ni)」はどちらも普通下称に分類されており、子供同士、大人が子供へ、家族の上位者が下位者へ使うと述べている⁸⁾。

次に4作品それぞれの「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」の出現回数を掲げておく。<表3><表4><表5><表6>

<表3> ドラマ『冬のソナタ』の出現回数

	男性	女性
-지(ci)	269(46%)	313(54%)
-냐(nya)	102(78%)	29(22%)
-니(ni)	159(39%)	248(61%)

<表4> 映画『猟奇的な彼女』の出現回数

	男性	女性
-지(ci)	25(36%)	45(64%)
-냐(nya)	22(71%)	9(29%)
-니(ni)		12(100%)

<表5> 映画『ラブストーリー』の出現回数

	男性	女性
-지(ci)	39(57%)	30(43%)
-냐(nya)	13(68%)	6(32%)
-니(ni)	9(26%)	25(74%)

8) もちろん、金東俊(1989)以外の分類・説明も提唱されている。また高永根(1989)は「-지(ci)」の形式を「叙相法(thought-mood)」と分類し、「話者の主観的観念を表す」と主張している。さらに、한길(1991)は「아/어(a/e)」との比較から、「-지(ci)」の「約束」「回想叙述」「推定」という意味的特性を指摘し、「親近感を表す叙述、柔らかさを表す叙述」と特徴付けている。윤석민(2000)では「話し手が既に知っている情報を伝達しながら、情報の真実性について話し手自身が確信していることを表し、伝達される情報に対する聞き手の信頼を増加させる特性を持つ」と述べている。本論文はこれらの得失を論じることを目的とはしていない。

<表6> 映画『ブラザーフッド』の出現回数

	男性	女性
-지(ci)	27(84%)	5(16%)
-냐(nya)	1(100%)	
-니(ni)	6(100%)	

<表3><表4><表5><表6>の一行目の「男性」「女性」は発話者の性別を示し、各行の数字は出現回数、括弧の中の数字はその割合を示す。<表6>の『ブラザーフッド』では戦場の場面も多いので、他の映画に比べて、より男性性の強い表現が現れるのではないかと調べてみたが、女性の登場する場面が想像以上に少なかったため、男女比を述べるほどの数を拾うことはできなかった。

「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」には絶対的な排他性は見られなかったが、性差に応じて使用される割合にある程度の違いが見られたのは、「-냐(nya)」と「-니(ni)」の形式である。(『ブラザーフッド』を除く)「-냐(nya)」の形式の使用者の男女比は、どの作品においても、おおよそ2:1で男性の方が高いことがわかった。「-니(ni)」の形式は「-냐(nya)」の形式ほどではないが、女性の方が多く使うという性差が表れた。

次章では今回取り上げた4作品のうち『冬のソナタ』を取り上げ、その台本から「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」の形式が使用されている台詞を取りだし、男女によって、これら3つの形式に使用頻度の差があるのかを探り、日本語の吹き替え版において、どのように訳されているのか、訳語に性差が表れるのかを報告する。

IV. 『冬のソナタ』における「-지(ci)」「-냐(nya)」「-니(ni)」

カットされている部分や意識過ぎて比べられないものもあったので、すべて対訳と比較できたわけではない。各々の表の下に比較できたものの数を書いておく。

<表7> -지(ci)(発話者が男性の場合)

よね	だろ	よ	(ん)でしょ	ね	(ん)だ	か	のか	無	
17	15	9	8	7	7	6	6	34	
恋人	恋人	年下(男)	年下(男)	恋人	友達(男)	友達(女)	友達(男)	恋人	
11	5	5	6	2	3	3	4	11	
友達(女)	同僚(女)	同僚(女)	部下(男)	友達(女)	年下(男)	恋人	恋人	友達(女)	
3	3	1	1	2	3	1	1	8	
同僚(女)	年下(男)	友達(男)	年下(女)	年下(男)	息子	息子	同僚(女)	年下(男)	
2	3	1	1	2	1	1	1	8	
友達(男)	友達(男)	友達(女)		同僚(女)		年下(男)		友達(男)	
1	2	1		1		1		4	
	友達(女)	年下(女)						配偶者	
	2	1						1	
								部下(男)	
								1	
								年下(女)	
								1	
な	よな	(ん)だな	かな	(ん)だろう	でしょう	ないと	から	さ	
5	5	5	3	2	2	2	1	1	
恋人	友達(男)	年下(男)	年下(男)	友達(男)	友達(男)	友達(男)	年下(女)	友達(女)	
2	3	2	2	1	1	1	1	1	
息子	恋人	恋人	友達(男)	年下(男)	年下(男)	友達(女)			
1	1	1	1	1	1	1			
友達(男)	年下(男)	同僚(女)							
1	1	1							
年下(男)		友達(女)							
1		1							
(ん)だね	だろうな	っけ	なよ	ぞ	だよ	でしょうね	のに	ろ	が
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
恋人	年下(男)	恋人	年下(女)	友達(男)	友達(男)	年下(男)	恋人	友達(女)	年下(男)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

出現回数269のうち対照できたものは145である。

<表8> -지(ci)(発話者が女性の場合)

(ん)でしよ	わよね	ね	の	のね	よね	のよね	わ	無
43	18	14	13	10	9	7	6	35
友達(女)	友達(男)	友達(女)	友達(男)	恋人	恋人	恋人	恋人	友達(男)
15	5	6	5	3	4	3	1	13
友達(男)	恋人	友達(男)	年下(女)	母親	友達(男)	友達(女)	友達(男)	恋人
9	4	4	3	1	2	3	1	10
恋人	息子	恋人	友達(女)	友達(男)	友達(女)	友達(男)	友達(女)	友達(女)
9	4	2	2	1	2	1	1	6
年下(女)	友達(女)	年下(女)	娘	友達(女)	母親		部下(女)	母親
4	2	2	1	1	1		1	2
年下(男)	母親		恋人	息子			年下(女)	妹
2	1		1	1			1	2
年上(女)	娘		妹	娘			娘	姉
2	1		1	1			1	1
息子	年下(男)			年下(男)				年下(女)
1	1			1				1
娘				年下(女)				
1				1				
妹								
1								
だろう	わよ	かしら	かな	よ	って	でしようね	ないと	わね
5	5	3	3	3	2	2	2	2
友達(男)	恋人	恋人	友達(男)	友達(男)	恋人	友達(女)	恋人	恋人
1	1	2	2	1	1	2	1	1
友達(女)	友達(男)	年下(男)	恋人	年下(男)	年上(女)		友達(女)	年上(女)
1	1	1	1	1	1		1	1
年下(女)	友達(女)			年下(女)				
1	1			1				
恋人	年下(女)							
1	1							
年上(女)	娘							
1	1							

つけ	のに	(ん)だわ	から	し	けど	わけね	だから	か
2	1	1	1	1	1	1	1	1
友達(男)	年下(女)	友達(女)	友達(女)	年上(女)	息子	友達(男)	年下(女)	友達(男)
1	1	1	1	1	1	1	1	1
恋人								
1								

出現回数313のうち対照できたものは192である。

表の日本語形式は「-지(ci)」がどう翻訳されているか、2行目の数字は使用回数、3行目はその発話が向けられた相手の属性を示している。「無」は日本語版の翻訳には、特定の文末形式が現れなかったものである。これらは以下の<表9><表10><表11><表12>も同様である。

まず聞き手の属性を見ると、男性の場合、年上の人には使用されていないが、女性の場合、192例中11例年上の人に使用されていた⁹⁾。発話者が男性で、年上に対する使用が見られたのは『ブラザーフッド』だけである。

また聞き手の属性を男女に分けて見ると、男性が発話者の場合、男性に対する発話は70例(47,9%)、女性に対する発話は76例(52,0%)である。聞き手は「恋人」「年下(男)」が上位を占める。女性が発話者の場合、男性に対する発話は110例(57,2%)、女性に対する発話は82例(42,7%)である。聞き手は「友達(男)」「友達(女)」「恋人」が上位を占めている。

<表7><表8>の中の斜体で表したものは、形式が重複しているものである。放送の時間が増えるのにもない、やはり多くの文末表現が現れた。<表7>を見ると、「よね」が一番多く訳されている。「よね」の用法について、日本語記述文法研究会(2003)の中で「聞き手に直接関わることや、聞き手の方が確かな情報をもっていると思込まれる事柄に対して、確認を求めるものである」とある。そこで例文(1)(2)を見てみると、

(1) 男性から異性の友達に対する発話

.....강준상.....그 사람 나랑 똑같이 닮았다고 했지?

(kang,cwun,sang..ku salam nalang ttokkathi talmasstako hayssci)

チュンサンって人、僕にそっくりだって言ってたよね。

9) 金東俊(1989)によると、「-지(ci)」の略待は『うちとけた場面では、上位者にも下位者にも使える表現』とある。

(2) 男性から恋人に対する発話

내가 너한테 이렇게 말하는 거 싫지?

(nayka nehanthey ilehkey malhanunke silhci)

嘘つきって言われたくないだろ。

「だろ」にも同じ要求の用法があるが、「よね」と比べ「だろ」には話し手の認識を押し付ける感がある。また「よね」は聞き手の知識への配慮が表されている(日本語記述文法研究会 2003)ので、押し付ける傾向のある「だろ」の場合よりも丁寧、あるいは思いやりのある表現となっている。

また「でしょ」は男女ともに使う形式である。ここにでてある8例中6例は、大学時代の先輩から年下の上司に発せられた台詞である。丁寧と言っても少し軽い感じのある形式が上司に対して使われているが、それは、この2人が親しいことを表している。

また女性の「よ」の使用が3例ある。先の尾崎(2004)の中で述べられていた助動詞「だ」を除いた女性専用の文末形式である。

(3) 女性から年下の女性に対する発話

당연하지.

(tangyenhaci)

当然よ。

<表7>と<表8>で注目する点は、中島(1999)の中で女性の「わよ」、「わよね」、男性の「だな」、「だよな」等が衰退していることが述べられているが、『冬のソナタ』の対訳の中にはそれらの形式が現れているうえに、その使用回数も少なくない。「わよね」に至っては、女性の対訳で2番目に多い使用回数である。その例文が(4)である。

(4) 女性から同姓の友達に対する発話

무슨 애긴지 알지?

(mwusun yaykinci alci)

わかってくれるわよね。

主人公の女性をより「女らしく」するために選ばれた訳語であると考えられる。しかし、そこには実際の使用とのずれが生じている。

<表9> -냐(nya)(発話者が男性の場合)

のか	(ん)だ	の	か	だろ	(ん)だよ	な	無
9	7	4	4	4	2	2	15
息子	息子	恋人	年下(男)	友達(男)	友達(女)	友達(男)	友達(男)
5	4	2	4	2	1	1	5
年下(男)	恋人	友達(女)		友達(女)	年下(男)	息子	年下(男)
2	1	2		1	1	1	5
友達(男)	友達(男)			息子			友達(女)
1	1			1			3
友達(女)	友達(女)						息子
1	1						1
							年下(女)
							1
かい	かな	ぞ	なあ	ね	よ		
1	1	1	1	1	1		
息子	恋人	友達(女)	年下(男)	友達(男)	友達(男)		
1	1	1	1	1	1		

出現回数102のうち対照できたものは53である。

<表10> -냐(nya)(発話者が女性の場合)

の	(ん)でしょ	のよ	わよ	わよね	かな	無
3	2	1	1	1	1	7
友達(男)	友達(女)	息子	友達(女)	友達(男)	友達(女)	年下(女)
2	1	1	1	1	1	4
年下(男)	年下(女)					同僚(男)
1	1					1
						息子
						1
						友達(女)
						1

出現回数29のうち対照できたものは16である。

聞き手の属性を男女に分けてみると、男性が発話者の場合、男性に対する発話が39例(72,2%)、女性に対する発話が15例(27,7%)である。聞き手は「年下(男)」「友達(女)」「息子」が上位を占めている。女性が發話者の場合、男性に対する發話が7例(43,7%)、女性に対する發話が9例(56,2%)である。聞き手は「年下(女)」「友達(女)」「友達(男)」が上位を占めている。男女共に年上には使用されていない。

「-냐(nya)」の形式では2つの形式が重複している。そのうちの一つは「の」である。訳語の「の」の聞き手の属性を見てみると、「恋人」「年下(女)」とすべて女性に対する発話である。「の」で終わる疑問文は男女ともに使用される形式だが、「のか」や語尾を高くして終わる疑問文と比べると、調子が柔らかくなる表現なのは確かである。「の」の使用により、あくまでも日本語版の訳語からのイメージであるが、女性に対する男性の優しさが感じられる。例えば、例文(5)である。

(5) 男性から異性の友達に対する発話

거기 남성복도 파냐?

(keki namsengpokto phanya)

メンズもあるの?

この表現を男性の訳語で一番多い「のか」に変えてみると、

(5)'メンズもあるのか。

となり、やや抑圧的な表現になる。

また、「の」(場合によっては「ん」)の含まれる文末形式は、比較的話される内容に発話者の何らかの不満や疑念が含まれている感がある。例えば、例文(7)や(8)である。

(6) 父親から結婚を急ぐ息子に対する発話

너 갑자기 왜 이렇게 서두르는 거냐?

(ne kapcaki way ilehkey setwulunun kenya)

どうしてそんなに急ぐんだ。

(7) 母親が気に入らない婚約者についての息子に対する発話

넌 그렇게 유진이가 좋냐?

(nen kulehkey yucinika cohnya)

ユジンのどこがいいのよ。

このように、例文(6)では父親が息子の結婚を急ぐ理由がわからず、息子に対する疑念が、例文(7)では母親の気に入らない人と結婚しようとする息子に対する不満が表れている。

<表11> -ㄴ(ni)(発話者が男性の場合)

の	のか	か	(ん)だ	かな	って	のかい	だよ	無
18	12	10	9	5	3	3	2	27
恋人	友達(男)	恋人	恋人	恋人	友達(女)	友達(女)	恋人	恋人
8	4	3	4	3	2	2	2	11
友達(女)	友達(女)	友達(女)	友達(男)	友達(男)	友達(男)	年下(女)		友達(女)
7	4	3	4	2	1	1		7
友達(男)	恋人	息子	友達(女)					友達(男)
2	2	2	1					5
年下(女)	息子	友達(男)						息子
1	2	1						2
		年下(男)						部下(女)
		1						1
								年下(男)
								1
(ん)だい	なんて	と思う	だから	だろ	よね	ね	とは	ろ
1	1	1	1	1	1	1	1	1
年下(女)	友達(男)	友達(男)	友達(男)	友達(女)	恋人	年下(男)	年下(女)	恋人
1	1	1	1	1	1	1	1	1

出現回数159のうち対照できたものは98である。

<表12> -ㄴ(ni)(発話者が女性の場合)

の	(ん)でしょ	かしら	わ	って	ね	のね	のよ	無
134	26	4	3	2	2	2	2	48
友達(男)	友達(女)	恋人	娘	友達(男)	友達(女)	息子	友達(男)	恋人
32	12	2	2	1	1	1	2	10
友達(女)	友達(男)	息子	息子	友達(女)	娘	娘		友達(男)
32	4	2	1	1	1	1		9
恋人	恋人							友達(女)
28	2							9
息子	息子							年下(女)
18	2							9
娘	娘							息子
10	2							8
年下(男)	年下(男)							娘
8	2							2
年下(女)	年下(女)							年下(男)
6	2							1

わよ	わけ	よね	よ	のに	なんて	かな	だろう	けど
2	1	1	1	1	1	1	1	1
恋人	友達(男)	友達(男)	恋人	年下(女)	友達(男)	友達(女)	友達(男)	息子
1	1	1	1	1	1	1	1	1
息子								
1								

出現回数は248のうち対照できたものは233である。

聞き手の属性を男女に分けてみると、男性の発話者の場合、男性に対する発話が32例(32,3%)、女性に対する発話が67例(67,6%)である。聞き手は「恋人」「友達(女)」「友達(男)」の順で上位を占めている。女性が発話者の場合、男性に対する発話が141例(60,5%)、女性に対する発話が92例(39,4%)である。聞き手は「友達(女)」「友達(男)」「恋人」の順で上位を占めている。「-냐(nya)」と同様、男女共に年上には使用されていない。

<表11><表12>を見ると、男女共に「の」の訳語が一番多い。女性の発話では「の」が半分を占めている。尾崎(2004)の中で「降るのか?」「降るの?」についてアンケート調査を行っている。その調査によると、男性は年齢差があるものの若い年齢層になるにつれ「降るの?」を使う傾向が高く、「降るのか?」は衰退傾向にあるらしい。20代の男性では、「降るの?」の数値は同世代の女性と変わらないと述べている。このことに関して「若い男性が、話し手が男性であることを積極的にマークする有標形式(終助詞「か」を付加した形)を使うことをやめ始め、これに代えて、中高年では主として女性が使用している無標形式を使い始めるという形で男性側から女性側へ接近しているケース」(尾崎2004)とあり、強い男性性の表現から、あまり強さを表に出さない男性性へと移行していることがうかがえる。

V. 結論

韓国語の形式の中で、使用頻度の面で、明らかな男女差があったのは「-냐(nya)」である。先にも述べたが、この形式の使用者の男女比は、今回調べたどの映画においても、おおよそ2:1で男性の方が多い。また興味深いことには、この形式で話しかけられる相手は男性である場合が多い。考えてみれば、もともとこの形式自体、対者待遇法の分類でも最下位の形式ではあるが、今回取り上げた他の2つの形式と比べても、友達や恋人に対する発話よりも年下あるいは同世代の友達に対する発話で使用されることが多かった。母語話者に対する聞き取りでは、この語形には「タフな」印象が付きまとうという反応があったが、その印象は、この年長の男性が格下の男性に向かって用いることが多いという点から形成されていると考えられる。また、対訳と比べると上位2つは「のか」「(ん)だ」で、これらの形式は益岡・田窪(1992)では、「の」を含む疑問文では、「のか」「のだ」「(のだよ)に由来する「ののだい」の形もある)の形は、男性的になる。(例省略)女性的表現では、「か」、「だ」を省略する」と述べられており、男性性が強い表現ということができ、韓国語の「タフな」印象と重なる部分がある。つまり、韓国語母語話者がドラマを見た印象と韓国語非母語話者が対訳でドラマを見た印象とにそれほどの差異は生じないと言える。

次に「-니(ni)」である。「-냐(nya)」ほどの差はないが、使用頻度をみると男性よりも女性に多く使用されている。また発話者が男性でも女性でも、聞き手が異性である割合が共に60%以上になっている。聞き手の属性にも特徴が現れていることは興味深い。対訳を見ると、男女共に「の」が一番多い。この形式は小川(2006)の実際の会話の調査でも男女共上位に来ており、疑問の意味であれば男性にも多くの使用が見られる形式なので、実際使用との差はあまりないと言える。これに関しては文末表現としての「の」ではなく、違う視点から「の」の持つ特性について調べる必要があると思われる。一部では実際の使用との類似点があるにも関わらず、それ以外の形式ではやや男性度、女性度が高いものが使用されており、そこに少なからずジェンダーフィルタ¹⁰⁾が影響していることがうかがえる。

最後の「-지(ci)」は、『猟奇的な彼女』では女性の使用が多く、『冬のソナタ』でも、差が縮まりはしたが、それでもまだ女性の方が多かった。しかし、『ラブストーリー』では、男女が逆転する。残念ながら、「-니(ni)」とは違って、登場人物の関係が反映している可能性は

10) 水本(2006)参照

考えにくい。したがって、性差に関して、なんらかの結論を出すことは、現状では難しい。

日本語だけを見ると、男性にだけ使用された形式は20種類、女性にだけ使用された形式は13種類であった。また、男女共が使用する形式で、言いさし表現・接続表現を除いた形式—具体的には「だろ」「か」「よね」「よ」「かな」「だ」「でしょうね」「だろう」「ね」「でしょ」「の」—の中で、男性が多く使う傾向がある形式は「だろ」「か」、逆に女性が多く使う傾向の形式は「の」「(ん)でしょ」「ね」であった。先述の尾崎(2004)が指摘するように、文末表現における性差は、縮小基調にあるとはいえ、今回取り上げた作品の台詞に関する限りは、依然として健在とみてよいであろう。

しかし、小川(2006)の辞書の見出し語では男性語・女性語として説明されながら、実際の会話では表れなかった「かしら」や、表れても使用回数の少なかった男性なら「か」、女性なら「わ」「わよ」「名詞+よ」などが使われているところを見ると、そこに「男性はこうあるべきである」「女性はこうあるべきだ」といったようなジェンダーフィルダがかかっているように思われる。

韓国は朱子学の影響が根強いことが知られている。女性の社会進出が進む中、男尊女卑とも取られかねない風習が、依然として残っていることも否めない事実である。そこで、ともすれば、言語形式においても性差が日本語より鮮明に表現されると誤解されることが少なくない。ところが、実際にはそうではないのである。むしろ、男女差よりも年齢差が重要なのである。ただし、これは言語形式における性差が存在しないことを意味するものではない。日本語であれば文末形式が表現する性差が、韓国では、任洪彬(1997)が指摘したような、音声上の特徴および抑揚や音調で表現されるということなのである。

また、文末形式を見る限り、一方の日本語は性差を担う表現にあふれ、他方の韓国語は、それに比べれば、性差を担う表現に乏しい。その結果、台詞を見る限りでは、韓国語では、一つの形式に、たくさんの日本語の文末形式が対応することが確認された。逆に考えれば、このように、韓国語の一つの形式が、様々なニュアンスを含んだ意味を持つことは、日本語と対照することで、はじめて明らかになるのである。もちろん、まだ明らかになっていない日本語/韓国語の構造上の特徴が、将来、韓国語/日本語との対照を通じて明らかになる可能性もあるかもしれない。今後も、さらにそのような可能性を追求したいと思う。

VI. おわりに

今回は映画やドラマの台詞を題材にした。字数に制約がある上、登場人物たちが口にしていても、画面を見ればわかることは、字幕や翻訳には再現されない傾向がある。そのため、その調査結果に、偏りや既にある実際の会話調査とのずれがある可能性も否めないが、それでも一定の傾向は指摘できたと考えている。とりわけ、日本語の訳について言うならば、訳者が敢えて性差を強調するために、現実生活よりは、性差が際立つ表現形式を選択したことも考えられる。

もちろん、それを逆手に取った戦術もあり得る。『冬のソナタ』で男性の主役を演じた俳優ペ・ヨンジュンは、作品が日本で放送されるやいなや、主婦たちから注目され、その後の騒動についてはここで改めて触れるまでもあるまい。あるテレビ番組のインタビューで、好きな理由を問われた主婦が「やさしそうだから」と答えていたのだが、その「やさしそう」の根底には、ペ・ヨンジュンの醸し出す雰囲気からだけではなく、文中で指摘したように、訳語の影響もあるかもしれない。もし、そうだとすれば、翻訳者の戦術は見事に功を奏したことになるであろう。

また『冬のソナタ』で女性の主役を演じたチェ・ジウに関しては、日本語訳のドラマでは、自分の思いはあまり表に出さない女性らしい女性というイメージなのだが、韓国語母語話者がもとの韓国語の台詞で見た場合、必ずしもそのように感じさせる女性ではないようである。そこに文末表現が聞く人(あるいは読む人)に与える影響の大きさを感じずにはいられない。

参考文献

- 이창숙 「国語의 女性語研究」 『江南語文』, pp.211-236, 2000 .
- 任洪彬 「韓国語」 『日本語学』, 第12卷第6号, 1993.
- 任洪彬 「韓国語」 井手祥子 『女性語』, 明治書院 pp.177-185, 1997.
- 上野田鶴子 「終助詞とその周辺」 『日本語教育』, 17号 pp.62-77, 1972.
- 遠藤織枝 「第2章男性のことばの文末」 『男性のことば・職場編』, ひつじ書房, pp.33-46, 2002.
- 遠藤織枝 「新聞記事の発話行為からみたジェンダー」 『日本語学』, 第23卷第7号, pp.38-47, 2004.
- 小川小百合 「話しことばの終助詞の男女差の実際と意識」 『日本語とジェンダー』, pp.39-51, 2006.
- 尾崎喜光 「女性語の寿命」 『日本語学』, 第18卷第10号, pp.60-71, 1999.
- 尾崎喜光 「日本語の男女差の現状と評価意識」 『日本語学』, 第23卷第7号, pp.48-55, 2004.
- 金東俊 「現代韓国語の対者待遇法の体系」 『神田外語大学紀要』, 第1号, 1998.
- グループ・ジャマシイ(編) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』, くろしお出版, 1998.
- 佐々木瑞枝(監) 『自然に使える文末表現』, 株式会社アルク, 2002.
- スーザン・ロメイン(著) 土田滋・高橋留実(訳) 『社会の中の言語』, 三省堂, 1997.
- 高橋みどり 「女ことば」を創りかえる女性の多様な言語行動 『月刊言語』, 第31卷第2号, 2002.
- 中島悦子 「第3章 職場の男性の疑問表現」 『男性のことば・職場編』, ひつじ書房, pp.47-62, 2002.
- 中村桃子 『言語とジェンダー』, 勁草書房, 2001.
- 中村桃子 「言語とジェンダー研究」の理論 『月刊言語』, 第31卷第2号, pp.24- 31, 2002.
- 中村桃子 「女ことば」の成立と国民化 『日本語学』 第23卷第7号, pp.14-25, 2004.

日本語記述文法研究会(編) 『現代日本語文法4 第8部モダリティ』,くろしお出版, 2003.

益岡隆志・田窪行則 『基礎日本語文法—改訂版—』,くろしお出版, pp.222-225, 1992.

水本光美 「テレビドラマと実社会における女性文末詞使用のずれにみるジェンダーフィルタ」『日本語とジェンダー』, pp.73-94, 2006.

<요약문>

한일양국 언어의 문말표현에서 보여지는 성차의 대조연구

- 소위 「한류」 드라마의 대사와 그 대역을 소재로 하여 -

스기 요시에(梶 佳枝)

본 논문은 한국영화 <엽기적인 그녀>, <러브스토리>, <태극기 휘날리며>, TV드라마 <겨울연가>의 한일 양국 언어 판의 대사를 대조하고, 일한양국언어에서 성차 표현의 서로 다른 점의 조사검토를 시도했다. 특히 종조사를 포함하는 문말 표현에 초점을 맞추고, 성차가 얼마나 표현되는지를 분석했다. 일본어 문말 표현에는 종조사 「わ」에서 볼 수 있듯이, 성차의 구별이 있는 형식이 몇 개인가 있다. 그런데, 이것과는 대조적으로, 한국어의 문말 표현에는 성차의 구별이 있는 형식은 없다고 이야기한다. 하지만, 가령 남녀 모두가 사용가능한 형식이어도, 그 사용 빈도에 성차가 나타날 가능성이 있다. 여기서, 한국어의 「-지(ci)」 「-냐(nya)」 「-니(ni)」를 대상으로 하여 비교했다.

그 결과, 성별을 불문하고 사용가능한 한국어 형식이라도, 그 사용 빈도에 차이가 있는 것이 명확해졌다. 사용빈도에 차이가 나타나는 것은 「-지(ci)」 「-냐(nya)」 「-니(ni)」의 형식이다. 「-냐(nya)」는 어떤 작품에서도 남녀 비율 약 2:1로, 남성의 사용이 많았다. 대역과 비교해도 남성성의 강한 문말 형식으로 번역되고, 이 형식에서는 성차에 대한 인상의 차이는 느껴지지 않았다. 「-니(ni)」는 남녀 비율이 2:1 까지는 가지 않더라도 여성들에게 많이 사용되고 있었다. 대역에서는 남성의 발화에서도 여성의 발화에서도 남녀 모두 사용하는 「の」가 가장 많았다. 한국어에서는 여성에게 많이 사용되어지는 듯이 사용빈도의 차이가 나타났지만, 대역에 관해 말하자면, 중립도가 높은 것으로 번역되고, 성차에 대한 인상에 약간의 차이가 느껴진다.

또, 「-니(ni)」에서 「の」의 형식이 많았던 것처럼, 대역에서는 실제의 문말표현의 회화조사와 겹쳐지는 부분도 있었지만 대부분은 실제로는 사용하지 않게 된 문말 표현이 아직 사용되고 있는 것을 알 수 있었다.

주제어 : 문말표현(文末表現) · 한류(韓流) · 성차(性差) · 종조사(終助詞) ·
모어화자(母語話者)